

三重で御朱印巡り

取材・文：中村真由美・中村元美・堀口裕世・中川絵美子
撮影……梅川紀彦・尾之内孝昭・中村元美
ただし※印の写真は取材先から提供していただきました

御朱印は、寺院で写経した証明として授与される納経印に始まることもいわれますが、やがて寺社を参拝した記録となりました。つまり、神仏とのご縁ができた証といえます。昨今では、絵柄や書体などにこだわった御朱印も多く、これらを求めて各地の寺社を巡る旅を楽しむ人々が増えています。

今回は、三重県内で御朱印を扱う寺社を6か所ご紹介いたします。御朱印は、寺社の由緒や風土を知るきっかけともなり、旅の記憶の1ページを豊かに彩ってくれるでしょう。

*各寺社での御朱印頒布に関しては、受け付け日時・料金・受け入れ人数・受け入れ方法などに違いがあり、状況に応じて中止・休止する場合があります。事前に必ずご確認ください。

季節の花や風物詩が描かれた絵柄が人気

金井神社

〔いなべ市員弁町〕

北金井周辺地域の氏神様として親しまれる金井神社には、月替わりの美しい絵柄の御朱印を求めて、全国各地から参拝者が訪れます。

「社務所がお休みの水曜日と置き書き（和紙に書いた状態）のみを授ける火曜日以外は、御朱印帳へ直接書き入れしています。絵柄は、たとえば1月は鏡餅と松竹梅、6月は朝顔と白百合、8月は向日葵と夏祭りなど、季節の花や身近な文化・風物詩を採り入れるようにしています」と教えてくれるのは、権禰宜の小野杏奈さん。小野さんの話によれば、御朱印を始めたのは御鎮座800年を記念するためですが、神社を知るときつかけになればとの想いもあったよ



小野 杏奈さん



令和4年葉月(8月)の御朱印・夏祭り



御朱印帳の表紙も色彩豊か

うです。

北金井周辺地

域は、今では閑静な住宅地や田畑が広がりますが、当時は洪水や飢饉が頻繁に起こっていました。そのため、

北金井・西方・大

泉・東一色の住民たちが、五穀豊穡と地域の安全を祈願して、皇大神宮・豊受大神宮・伊勢神宮を祀ったのが始まりです。承久3(1221)年のことでした。

その後、焼失して廃社となった時期もありましたが、住民たちの要望が実り、宝暦11(1761)年に再建されました。明治時代に春日社や金蔵社が合祀されて現在に至りますが、創建以来、ずっと

心よりどころだったのです。

最近では、叶の宮とも称される神社境内は、多くの風鈴(夏季のみ)や風車で彩られていました。風鈴の短冊や風車の羽根の部分をよく見ると、「新幹線の運転手になりたい」「元氣な赤ちゃんが産まれますように」「家族みんなが健康に過ごせますように」など、多世代の人々の夢や願いが綴られていました。ヒラヒラと風に揺れる短冊や、クルクルと回る羽根の様子は、神様が切なる願いを聞いてくれているかのように見えました。



金井神社本殿※



境内を彩る風鈴と風車

お問い合わせ

金井神社(社務所水曜日休館)
TEL 0594-888-5588
(午前9時~午後3時)

※印の写真は取材先から提供していただきました

伊勢型紙職人が彫った型紙を使い、手刷りの技を披露

福生山 長徳寺

〔亀山市関町〕



手刷りの技を披露する能美 寛教さん



〔風神〕

「5年ほど前、当時の世話人総代の南部 幸生さんが伊勢型紙職人のため、私が伊勢型紙を使用した御朱印をやりたいたいと願っていて、やっと実現しました。絵柄は、現在40種類あります」と話すのは、副住職の能美 寛教さん。伊勢型紙といえば、三重県が誇る伝統工芸品。和紙を柿渋などで丈夫にした型紙に、彫刻刀などを使って精緻な文様を彫ります。江戸時代には、武士が着用した袴の染め文様に用いられ、その後、江戸小紋や伊勢木綿などにも広がり、今日でも染め物には欠かせない存在です。

御朱印を始めると、驚くことばかり」など、御朱印にまつわる興味深い話についても伺いました。御朱印には、愛好者自身へと物語を受け継いでいく役割もあると知りました。



正倉院由来の鳳凰がモチーフの御朱印

の山門です。同寺の歴史は、鎌倉時代の高僧・了源上人(1295〜1335)が当地に結んだ草庵に始まると伝わります。以来、街並みの変遷を見届けてきましたが、令和2年以降、御朱印愛好者の注目を集めています。

旧東海道の47番目の宿場町として賑わった関宿には、今も江戸時代の面影が色濃く残ります。幾重にも連なる瓦屋根や虫籠窓などに目を奪われながら散策していると、大和街道との分岐点「西の追分」近くに見えてくるのが、長徳寺

の揺らぎが生じ、それが独特の風合いや味わいになっています。

「私の場合は手描きなので、40分程度かかりますが、その間のおしゃべりも楽しみです」と話すのは、能美さんの姉の森史子さんです。絵が得意な森さんは、本年4月から手描きの御朱印を始め、女性に人気となっているのです。二人からは「自分分が亡くなったら、御朱印帳を棺桶の中に一緒



巧みな筆使いの森 史子さん

に入れてもらいたい」、「母の形見の御朱印帳を元に同じ



華やかな絵柄の御朱印

寺社をたどると、驚くことばかり」など、御朱印にまつわる興味深い話についても伺いました。御朱印には、愛好者自身へと物語を受け継いでいく役割もあると知りました。

お問い合わせ

長徳寺
TEL 070-5335-0393



関宿の家並み



長徳寺本堂



1枚刷り終わるたびに少しずつ完成に近づく



多彩な絵柄の中から選ぶのも楽しみの一つ



能美 寛教さん

森 史子さん

塔世山 四天王寺

【津市栄町】



「聖徳太子」の御朱印(9月)

新しい「救世観音像」

津市の中心部にある四天王寺は、聖徳太子(574〜622)が開かれたといわれる古い由緒を持つお寺です。飛鳥時代から千数百年の歴史を重ね、平安時代につくられた葉師如来像(重要文化財)、鎌倉時代の聖徳太子像(重要文化財)、織田信長祈願の三面大黒天、江戸時代に建立された山門(指定有形文化財)など、さまざまな時代の仏像や建築が伝わっています。

多くの仏様がお祀りされた本堂で、ひととき新しい仏像は、救世観音像。白木

喜んでもらい、思いがけないほど悩みを打ち明けられたり相談を受けたいです。」



住職の倉島 隆行さん

たりしました。「安心した」というお声もありました。その経験からも、身近な、寄り添える存在でありたいと思ひ、なるべくみなさんに声を掛けるようにしています」と、熱い思いがあふれるかのように、積極的に動かれます。

このお寺の御朱印は、「聖徳太子1400年」季節限定の三面大黒天「葉師如来」「三面大黒天」の4種類があり、見開きの2面を使って季節の花などをあしらった



「季節限定の三面大黒天」の御朱印(9月)

カラフルなもの。いずれも月ごとに絵柄が変わります。「きれいな御朱印だと喜んでいただいています。季節感やぬくもりを感じていただきたくて、1枚ずつ、すべて私が印を押し、文字を書いていきます。ですからまったく同じものは存在しない1点ものです。孤独や孤立が問題視される昨今ですし、ことに新型コロナウイルスのパンデミック後は分断がひどくなり、人の心に厳しい時代です。御朱印は、そんな中でも仏様とのつながりを感じる方法の一つ、和の心を拡げる橋渡しと考えています。毎月お受けいただく方もあり、ご縁が広がるよ

うでありがたいです。」

御朱印は郵送対応もしており、伝統工芸の伊勢和紙が使われています。また、「和」の一字写経のハガキが同封されていて、「和」の文字をなぞって送れば、毎月22日の平和祈願法要で祈願をしてもらえます。

お問い合わせ

四天王寺

TEL 059-228-6797



御朱印は毎月絵柄が変わる



本堂にお祀りされている「三面大黒天」



寛永18(1641)年建立の山門



本堂には多くの仏像が並ぶ

神明神社(石神さん)

〔鳥羽市相差町〕



石神さん。では祈願用紙も用意され、願いごとを1つだけ書くことができる



神明神社の御朱印

い、ドウマン・セイマンが描かれているのです。「この御朱印の色とデザインは、

全国から年間20万人以上の参拝者が訪れています。

この神社の御朱印には海女のまちの神社ならではの特徴があります。神明神社の御朱印は朱色ではなく紫色(貝紫色)をしており、海女の魔除けのまじな

安心して漁に出られるようになった、と伝えられています。と伝えます。と地元の



ドウマン・セイマンが描かれた御守

鳥羽市相差町は、現役の海女が日本で一番多い町。その相差町の氏神、神明神社は古くから地元の人たちが信仰し、安全大漁を祈願してきた神社です。近年では境内にある石神さんが「女性の願いを一つ叶えてくれる」と評判になり、



今回お話を伺った大田 豊さん(1番左)、宮司の大田 清博さん(左から3番目)

が教えてくれました。大田さんは、海士をしながら神社の手伝いもされ、訪れた人に海女文化や石神さん、相差のことなどを伝えていきます。

このように地元住民との関わりの深い神明神社では、今も地元の人々が神社

を中心に地域を盛り上げようとする取り組みも盛んです。その一つが「相差神あかり」石神さん夜参り。相差海女文化運営協議会・相差DMOが企画・運営する満月と新月の夜限定の夜参りイベントです。当日は参道のライトアップ、提灯の貸し出しなどがあり、神社や周辺の施設も夜間営業をしています。また夜参り限定の御朱印も用意されています。満月の日には満月、新月の日には新月のモチーフが描かれた伊勢和紙の台紙に貝紫色の御朱印が押印され特別感があります。



本殿には天照大御神を主祭神に26柱の神様が祀られる。



「相差・神あかり～石神さん夜参り～」のようす※



新月(左)と満月(右)の御朱印

参りの絵馬が飾られていました。「子どもを授かった」「良縁に恵まれた」など、お礼参りで訪れる人やりピーターが多いのもここならではのです。新しい年に、あなたの叶えたい願いを祈りにきてはいかがでしょうか。

お問い合わせ

相差町内会

TEL 0599-21-6660

※印の写真は鳥羽商工会議所から提供していただきました

毎月の参拝の証に彩りも美しい
消しゴム判子の御朱印を

美波多神社

〔名張市新田〕



灯籠の参道を進んだ先にある本殿

初瀬街道沿いに立つ大きな常夜燈と石柱を目印に、田園の中を一直線に進んでいくと、美波多神社が見えてきます。砂利を敷いた参道が奥へと続き、陽差しに照らされた明るい境内に本殿があります。「朔日参りをされる参拝者が多くて、その方たちに何か楽しみがあればと、令和3年1月から御朱印に月替りのものを加えました」と話すのは宮司の佐久真 みゆきさん。宮司自ら手掛けた御朱印は、消しゴム判子



昨年の9月はお月見を

や和風ステンシルで愛らしく、版画のように凝った仕上がりもあります。女性ならではのやさしいデザインで、今年は四季折々に咲く花々を中心に、昨年季節ごとの行事や二十四節気からイメージするものをあしらいました。「花が伝える季節感、暦の移り変わりや、啓蟄といった言葉のメッセージに目を向けていただけたらとデザインしました」と佐久真宮司。月替りとなれば判子の制作に時間を要しますが、彫る作業よりも月毎の変化や色合いを考慮し、図案を決める方が苦勞するようです。



宮司の
佐久真 みゆきさん



月ごとの花々で彩も美しい

美波多神社は美旗地域の氏神です。江戸時代承応年間(1652〜1655

年)に開発された新田村に、当時入植した村民が三柱神社を氏神として勧請しました。その後、開発の恩人である加納藤左衛門直盛公の遺徳を顕彰するために、没後54年目の享保16(1731)年に加納神社を合祀。地域の恩人に対する信仰は今でも篤く、熱心に手を合わせる参拝者が絶えません。毎年12月7日には、功績を偲び、加納祭(偉人祭)を行い、感謝し続けています。その後、明治43(1910)年に村内の東田原九頭神社、中村國津神社、小波田福田神社が合祀され、



地域の恩人を記る加納神社



雨と豊作を願った「雨乞石」



用水路に使われた「かけひ」

天照皇大御神ほか14柱を祀り、現在の美波多神社となりました。境内には天からの雨の恵みと豊作を祈ったとされる「雨乞石」が置かれています。日照りが続くくと近くの田んぼにこの石を沈め、焚き火をして雨乞い神事が行われたと伝わります。稲作に関する感謝と祈りの象徴が、境内にもう一つ。用水路の樋に使われた「かけひ」です。通水の無事を祈願し、神社の大木をくり抜いて使われていたそうです。新田水路は現在の伊賀市高尾にある水源地から新田まで、約14キロにおよぶ用水路。この水路の中間部に川を横断させなければなら

ないところがあり、ここに樋を掛けて新田水路と川を交差させました。現

在は鉄製の樋が掛けられています。使命を果たし終えた「かけひ」が存置されています。「この農村地域では水回りは採め事の要因ともなり、大変に苦勞されたということがよくわかります。家庭で龍神を祀るところもあるぐらいです」と開墾からの地域の尽力を、佐久真宮司は話します。

社頭には、佐久真宮司のアイデアで新たに加わった授与品が置かれています。上小波田地区の無形民俗文化財である火縄を使った「火除守」もその一つ。長さ約55センチの火縄の一端をあぶって2重の輪を作り、中央に札を付けたお守りで、封入する台紙も含めて自作しました。「名張出身ではないわたしを、地域に受け入れてくれた人たちのためになれ」と。火除守も月替りの御朱印も、女性宮司ならではのアイデアで、地域おこしにも一役買ったと奮闘しています。

お問い合わせ

美波多神社

TEL 05955-655-1220

三瀬谷神社

〔天台町佐原〕



大木がそびえる境内に本殿が鎮まる

スギの巨木が何本もそびえ立つ厳かな三瀬谷神社に、令和4年の春、イラストの御朱印が登場しました。宮司の上田 真也さんから「イラストレーターの不ずなごんさんが描く優しいタッチが好きで、SNSを通じて御朱印をお願いしました。境内に生育する四季の植物とさまざまな時代の人物をモチーフに、オリジナルのデザインで仕上げただけきました。4種類ありますが期間限定ではありませんので、いつお参りされても



梅の花に現代の人々が描かれる

お受けになれます」と、御朱印のきっかけを教えてくださいました。神社の特徴を表現したいという希望を受け、植物は桜、クチナシ、紅葉、梅の4パターン、また神社は昔から現在までその時代の人々により受け継がれてきたことから、それぞれに古代、中世、近世、そして現代の人物が描かれています。

上田宮司が常駐していないため、不在でも受け取れるよう社務所に書き置きし、参拝者もじわじわと増えているようです。

「もともとお参りにお越しただいた方から、御朱印の要望もあつてはじめたものです。神社らしい和風のイラストで、みなさんに喜ばれていると総代さんから聞いています」とうれしそうに話す上田宮司。



4種類の御朱印が書き置きされている

三瀬谷神社には宗像三女神をはじめ26柱が祀られています。創始に関しては資料や口承が乏しく定かではありませんが、倭姫命の伝承に遡ります。天照大神御鎮座の地を探し、倭姫命が宮川沿いに現在の三瀬の渡し跡で御輿を停め、その場所に神社を建立。人々の崇敬を集めていたことから、江戸時代初期に佐原区へ分祀し、建立したのがはじまりだと伝えられています。

明治時代には周辺地域の神社が合祀され、今日の三瀬谷神社となりました。本殿は大台町大字菅にあった、素賀神社から移築されたとされ、平成22(2010)年の登録有形文化財に選定され



佐原地区の住宅街にある



本殿は国の登録有形文化財



月次祭に参列する総代



境内の一隅に神宮遥拝所

ました。入母屋造りの社殿で、正面に付けられた木製の階段上には向拝が張り出し、三方の縁に擬宝珠が付いた欄干があり、軒が深く、気品のある社殿です。宮司の上田さんは滋賀県生まれです。神職をめざして皇學館大学神道学科へ進学し、在学中に、大台町内にある川添神社の林宮司と知り合い、三瀬谷神社の宮司候補として声を掛けられたことがきっかけで、大台町に移り住みました。現在は北畠神社の宮司も兼務しています。

地区の氏神様に親しみを持ってほしい、また町外の人にも三瀬谷神社に足を運んでもらう機会をつくりたいと、数年

前の新嘗祭の日
に知人のミュー
ジシャンを呼び、
コンサートを開
いたこともあり
ます。その日は地元佐原区の「佐原の明日を考える会」主催で野菜市や縁日を出店して、秋祭りも同時開催され、にぎわいました。感染症が落ち着けば復活させたいと話します。



宮司の上田 真也さん

宮司となつて5年。毎月第3土曜日に月次祭を行っています。最初はわたくし一人ではじめたものですが、その様子を見て、総代さんも参列してくれることになりました。Twitter(三瀬谷の神主)では神道についての話題も載せて、身近に感じてもらえるよう努力しています。神社の発展と地域に喜ばれることを模索しながら、新しい風を吹かせていきます。

お問い合わせ

三瀬谷神社

<http://www.ma.nctv.ne.jp/~shinya18>